

# 2020年3月期 第3四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2020年2月14日

## 注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2020年3月期第3四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

# 業績概要<sup>1</sup>

[億円]	20年3月期	20年3月期	対前四半期	20年3月期 9ヶ月通算
	2Q	3Q		
売上高	2,390	2,544	+154	7,076
営業利益	▲658	▲205	+453	▲1,852
マージン	▲28%	▲8%	+19pt	▲26%
当期純利益	▲560	▲253	+307	▲1,765
マージン	▲23%	▲10%	+13pt	▲25%

## 補足情報

減価償却費	1,019	1,050	+31	3,065
PPA影響 <sup>2</sup>	▲282	▲288	▲6	▲855
停電影響 <sup>3</sup>	▲1	0	+1	▲345
リファイナンス等影響 <sup>4</sup>	0	0	0	▲194
法人税等費用	▲225	▲80	+145	▲649

1. 連結・IFRSベース

2. Pangeaによる旧TMCの買収に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額

3. 停電による仕損品に関わるコスト、未稼働期間の製造固定費、修理費に、2Qについては停電に

より増加した製造コストのJV契約に基づく按分を加味した会計上の営業利益への影響額であり、売上関連等の影響額及びその他軽微な影響額を含まない

4. 借入金の期限前返済、優先株式の期限前償還に伴う一時的な影響額（営業外）

# ハイライト

## 足元の実績及び動向

	20年3月期 2Q	20年3月期 3Q
GB物量 (QoQ)	20%台前半の 増加	1桁%台後半の 増加
GB単価 (¥, QoQ)	1桁%台半ばの 下落	1桁%台半ばの 上昇

- 昨年6月の停電による四日市工場の操業影響はなくなる
- SSD向けの物量が伸び、GB物量は引き続き増加
- 需給バランスのさらなる改善を受けて、GB単価は上昇に転じる

## 製品開発・技術開発

- 業界最大容量512GB<sup>1</sup>の車載機器向け組み込み式フラッシュメモリの出荷（2019/11/14発表）
- 3次元フラッシュメモリの半円型構造セル「Twin BiCS FLASH」の開発（2019/12/12発表）
- 第5世代3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の開発について（2020/1/31発表）

## 市場動向及び見通し

- マクロ経済の不確実性はあるものの、データセンター投資の回復や5G対応スマートフォンの登場によってメモリ需要は堅調に増加するとの予想が一般的

1. 2019年11月14日現在。当社調べ

**KIOXIA**